

Canada の紅葉街道を訪ねて(1)

< 成田 ~ シカゴ ~ トロントの教訓 >

中能孝則

いざ Canada へ

本格的な熟年の旅のスタートは、紅葉街道の旅であった。今回で2回目の訪問であるがこの時期はやはり高くなってしまふ。

そこで、少しでも安くそしてリッチな旅をと思いアメリカのシカゴ経由でトロントへ入ることにした。

アメリカへの入国は審査など少々気難しいこともあり神経を使う。我々は成田での荷物預けもスムーズであったが、隣の客はトランクに鍵を掛けるの掛けないのでスタッフともめていた。

アメリカへの入国は原則鍵を掛けないというルールになっているので、それに従えばいいことであるが、自分の考えを通そうとする日本人が海外へ出かけるのはいかなものかと考えさせられた。

それからするとわが団の皆さんは実に協力的で引率も楽である。

教訓その1

10 時間の飛行機の旅を楽しみ、中継地シカゴに到着、皆さん少々疲れ気味ではあるが元気に入国審査へと向かう。

おかげ様で手続き待ちの人は少なく苦にはならなかった。しかしアメリカの人はおおらかというか……。手続き待ちの整理をしている係りの女性は時々クッキーを口に運びながら、あっちへ行け、こっちへ行けと我々を指図している。日本でもこのようなことがあるのかな。

さて、我々の順番が来た、指紋の取り方、写真の取られ方などをレクチャーし、ひとり一人スムーズに通過。と思い気や二人足りな



い。振り返ればガラスの向こうにその二人が立っている。どうしたの。声は届かないが、ジェスチャーによると、指紋のところ引っかかったとのこと。お互いにあせりの色は隠せない。特にガラスの向こうの二人はとても不安そうであるが様子を見るしかなかった。

しばらくして係官が訪れ別の部屋へ、どうなるのか心配していたが、しばらくして笑顔の二人が現れた。

聞くところによると、二人の指紋を取るガラス面が汚れており、判定が不完全であったために、再審査にまわされたとのこと、とにかく何事も無く一安心であったが、指紋を取るときにはガラス面に指をしっかりと押さえつけることが大事なようです。

(参考)

日本の洗剤は少々強いために、日本人の指紋は薄い人が多いとのこと。そこで、指紋をとられる前に、5本の指で鼻を数回なでておくといふことでした。

教訓その2

シカゴに入国2時間のトランジッタの後トロントへ向けて出発。

そして、トロント空港へ降り立ち、ここでも入国審査を済ませたり、手続き途中の人もいたが、全員いることを確認し、荷物引取りに向かう。

ところが、荷物を引き取る段になってひとりいないことに気がつく。

全員異口同音にさっきまで一緒にいましたよ。さあ大変。自分たちより先に行った可能性は無いが、後ろにはまったく見当たらない、我々は Canada には入国したし、それ以前には戻れないし、まるで狐にでもつままれたような感じで探し回る。

全員では動かないように、数人で探し回る。しばらくすると、入国手続きのところからひょっこり現れた。

「どうしたんですか」本人も何がなんだか分からないうちに別の場所に案内されたとのこと。

詳細にはわからないが、パスポートの再確認のために別の部屋に通されただけとのこと。とにかく何ごとも無く胸をなでおろしたが、本人が一番不安であったことは間違い無いと思う。やはり、全員が入国審査を終わるまで待つべきであったか。

後で分かった教訓

今回はカナダのナイアガラ市からアメリカのナイアガラ市に渡り、アメリカ滝の下において風の洞窟ツアーが予定されていた。

そこで、ガイドさんから「アメリカに再入国するための VISA はパスポートに張ってありますか」との質問。

いやそれは何ものですか。「シカゴに入国したときに入国カードの半券をパスポートに張ってありませんか」

「それはシカゴを出るときにはがされました」と我々。「それはシカゴを出て日本に帰るときにはがされるもので、その間にアメリカに入国するときには必要である」とのこと。

しかし無いものは無いのである。(係りの人が機械的にはがしてしまったらしい)

結局、一人 6 ドルの手数料を払って再手続きを行い、事なきを得たが、そのことを知っておれば、手数料は必要なかったとのことである。しかし、今回は半券をはがされてしまったので、結局日本に帰るときにはやはり再度の手続きが必要とのことでした。

今回の参加者は 8 人で、約 5,000 円の学びとなりました。

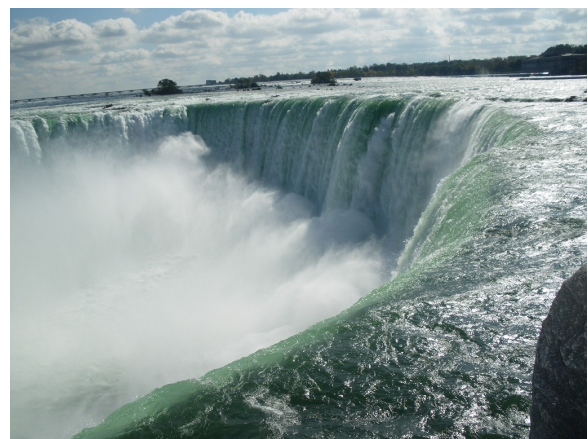
トロントは秋晴れそして Niagara へ

昨晚の雨がうそのような晴天に恵まれた 2 日目は、早朝から州議事堂をはじめとする市内観光に繰り出す。

街は碁盤の目のように道路が整備され、全ての通りに名前が着いています。たとえ迷っても自分の居場所を正確に伝えることができるとのことでした。

日本はなぜそうはならないのだろうか、不思議である。

トロントからナイアガラまでは高速道路で約 2 時間、高速料金はもちろん無料です。そして Niagara Falls へ。自然の織り成すドラマは実に壮大であり、人間など足元にも及ばない感じです。だからこそ人々は知恵を授かったのかもしれません。



< 落差 50m のカナダ滝 >

明日はモントリオールへ向かいます。